



ユニオンニュース・掲示回覧用

私たちの地域合同〔第17回〕

組合潰しに始まったワールド印刷闘争は、会社の破産法攻撃を乗り越えて、組合が中心となって新会社国際印刷出版研究所を設立し、職場を取り返しました。大阪地域合同だけでなく南大阪労働運動の勝利でした。77年8月に和解が成立した後、11月には新工場の披露集会が、翌年9月には記念事業として『足尾鉍毒闘争』を出版することができました。79年10月には木本現委員長も新入社員として入社しました。

この頃から、長い闘争を引っ張ってきたT分会長が出勤してこなくなるなどの問題が起きましたが、なんとか残りの分会員で話し合いながら自主運営を続けました。再建途上ということで労働条件面では厳しいものがありましたが、会社の業績は回復していききました。しかし、その一方で分会の活動は実質的には停止してしまいました。次第に社内で経営方針や労働条件、その他些細なことに至るまで、意思疎通が滞るようになりました。

84年、旧ワールド印刷で解雇の当事者であったY書記長が分会を解散し、代表取締役(他に新取締役2名)になりました。自主運営の原則に則って会社を運営するよう主張するメンバーは同年末に新ワールド分会を結成しました。

(次号に続く)

まだまだ低い最低賃金

最低時給 964円

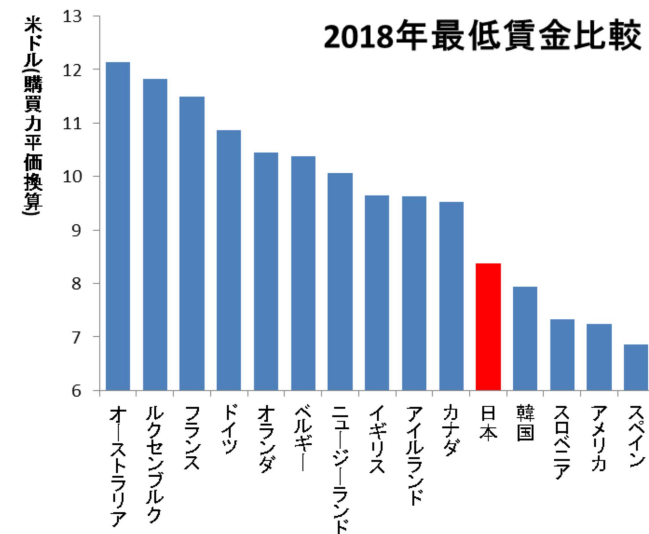
7月1日最低月給 約162000円以上

10月から最低賃金が28円上がりました。数年前に比べれば随分上がったような気がしますが、日本の最低賃金は国際的にはあまりに低く、今後も継続的に上げていく必要があります。最低賃金を上げることは経済全体にどんな影響を与えるのでしょうか。

最低賃金を上げることの意味

難しい理屈は別にして、経済学の理論では最低賃金は雇用を減らすと言われてきました。ところが、最近、意外と減らないという研究が増えてきたようです。特に人口減のフェーズにおいては雇用への悪影響はさらに小さくなります。

また直感的にはわかりにくいかもしれませんが、理論的には最低賃金を上げることは、(最低)労働生産性を上げることを意味します。よく言われる、日本は他国に比べて労働生産性が低いという指摘は、理論的に言えば賃金が低いというのと全



く同じ意味です。

低賃金でないと成り立たないという理屈は日本が発展途上国だった時代と全く同じ筋立てです。日本の経済を立て直すためには賃上げが必須で、最低賃金はまさに最低ラインです。

最低賃金でも暮らせる社会を

先進国と言われる日本で毎日8時間働いて暮らしていけないことがおかしいのです。普通に働けば普通に暮らせる社会を目指しましょう。

大阪地域合同・全港湾建設支部共催学習会

11月15日 18:30～ エルおおさか 701号室

「職場から労働災害をなくすために」

講師 連合大阪労働安全衛生センター参与 西野方庸 さん

職場でケガをすると労災です。労災を防ぐために私たちはどんな要求をすれば良いのでしょうか。具体的かつ実践的に学習しましょう。

＝読書案内＝



沖縄人として
日本人を生きる
:基地引き取りで
暴力を断つ

解放出版社
1400円+税

金城馨著

元大阪地域合同
労働組合副委員長

金城さんは、東洋紙工分会を立ち上げ、80年代後半は本部の副委員長も務めた。労働運動に限界を感じて今は地域社会での沖縄文庫の活動に専念している。一昨年には秋季研修会の講師もお願いした。本書は基地のことが大きなテーマにはなっているが、それだけではない。沖縄と日本の関係を考える道になる。そして人間として誠実に生きるというのはどういうことかを示唆してくれる。

10

October

17日 地方ユニオン秋季学習会

「休業に関わる問題と復職について」

29日 労働関係セミナー

18:30～20:30 エルおおさか701

「パート・有期・派遣労働者の労働条件の決まり方 ～労働条件の決定を縛る
タテ・ヨコ・ナナメ～(仮題)」

講師: 幸長裕美弁護士

11

November

15日 秋季学習会(左参照)